

私の教育実践 ～ユニバーサルデザインの教育を～

内子町立天神小学校 校長 山田 千尋

はじめに・・・

教育に必要なのは、自分自身が「常に進み続ける」ことである。何事も「学び」である。辛いことやうまくいかないことも、全て自分を磨いてくれる砥石であると思い、乗り越えてきた。

校長の任に就いてからは、毎年4月に自校教職員に次のようなことをお願いしている。



1 「分かる・できる」授業を実践しましょう。

- ・授業で勝負できる教師を目指す。（学校は学ぶ場である。子供の学びの芽を育てる。）
- ・理解に時間がかかる子供、何をするにも時間がかかる子供・・・粘り強く愛のある指導が、必ず成長や変化を促す。「よさ」を見つけ、「個性」を伸ばす教育を継続しましょう。親以外で子供に深く関わるチャンスがあるのが、私たち教師です。関われるチャンスに感謝して、根気強くがんばりましょう。

(1) 授業のユニバーサルデザイン化を実践しましょう。

- 「誰でも分かる・誰でもできる」を目指す
- 1時間ごとの「めあて」を提示しノートに書かせる。（何をゴールとするか）
（学習障がいや発達障がいを抱えた子供にも分かるように）
→「できるだろう」、「分かるだろう」の「だろう」という意識は捨てる。
※子供一人一人が、「この1時間ではこれを理解すればいいのだ。」とゴールが見える授業を・・・
- 1時間ごとに必ず「振り返り」をさせる。
※分からなかったことは、ここが分からなかったということを分らせておく。
（何が分かっていないのか？どこを復習すればいいのか？）
- 教材研究とは何か？
※「この1時間で、何を子供たちに教えるのか。何を伝えるのか。何をできるようにさせるのか。」を教師自身が理解するための取組（手を抜かない）

(2) 学び合い・話し合い学習の導入・発表の場の設定をしましょう。

- 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
- ※知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）
- ※「見方・考え方」を働かせる。

(3) 学習習慣の定着や学習意欲の向上を目指しましょう。（宿題の与え方等）

- ※宿題ができてないことが、次の学習の意欲減退につながらないように。
- ※個別に対応しなければならない子供がいることを知って、対応する。
→実態に即した課題の与え方を考える。甘えのラインと苦痛のラインの見極め

2 学級経営の充実を図りましょう。

- ・子供の立場に寄り添い、粘り強く、丁寧に
 - よい学級とは、子供たちが安心して生活できる。
 - よい学級とは、優しさと正義が存在する。（公平で愛のある視点）
※いじめのないクラスあるいは、あっても適切に対応できる学級・学校を目指す。
 - よい学級とは、先生が子供のことが好きである。（子供も先生が好きである）
- ・保護者に寄り添い、粘り強く、丁寧に

- 子供を中心に置いて会話する。（まず褒める。そして課題を伝える。）
 ※信頼関係ができれば、相手から相談をしてくるようになる。
 ※チャンスを逃さない。（例えば、欠席した場合の安否確認の場面等）ただし、相手の生活リズムや生活パターンも考慮する。タイミングが悪いと逆効果の場合もある。
- 保護者と同じ目線で（子供のためにという視点）

3 信頼関係を構築しましょう。（児童と・保護者と・地域と）

- ・特別なことをするのではなく、当たり前のこと続けることが大切
- あいさつ（積極的に大きな声で）言葉だけでなく思いも伝える
 児童・・・表情観察・明るい声かけ
 保護者・・・子供のことを話題に。子供を褒める話を・・・。
 地域・・・積極的に進んであいさつ。少しずつ顔見知りに・・・。

4 私の思い・願い

(1) 物事には何事も意味があります。

- 出会った人や物事から学ぶ姿勢を持ち続けてほしい。
 「学び続ける者こそ人を教える資格あり」
 「成功体験」は素晴らしい。でも、「成功体験」だけで終わらない。「失敗」を恐れないチャレンジ精神こそ素晴らしい！失敗のある職場は成長する！

(2) 教育のプロとしての誇りを持ちましょう。

- 一人一人が、教育職員としての自覚と誇りを持ち、自律する。
- 雰囲気良ければ・・・必ずよい効果が出る→よい結果につながる。
- 互いに足りない分を補い合う精神→「私がやりましょう」「手伝いましょう」

(3) 時を守り 礼を正し 場を清めましょう。

- 余裕を持って出勤する。→事故の予防（交通事故の原因の多くは慌てた心理状況）
- 1時間1時間の授業を大切に。（終わりの時間を守る）
- 提出期限を守る。（提出文書等）
- 気持ちのよいあいさつを！（信頼感、つながりの深まり）
- 環境が人をつくる。清掃は人を磨く。整理整頓を心がける。

(4) 生徒指導は組織的に行いましょう。

- 一人で抱え込まない。報・連・相&確（必要な場合は必ず複数で対応を）
- 後手に回らない。情報を得てから時間が経過すると、こじれる可能性がある。
- 子供の背景を理解する。そして共感する力も大切。
- 「心のABC」を合言葉に
 ※A（当たり前のことを）B（ばかにしないで）C（ちゃんとする）

終わりに・・・

私が教育に携わるようになってから、ずっと続けてきたことがある。それは、

- 何事も前向きに考える。失敗を恐れないこと。くよくよしないこと。
- 全ては「子供たちのために」というぶれない目当てを持ち続けること。
- 明るく元気よく生きること。
- 学び続けること。謙虚であること。
- 常に「次こそは」と、前に進み続けること。
- 人との出会いに感謝すること。

これが、私の教育実践である。